

神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画

(概要版)

1 計画策定の目的

神戸電鉄粟生線沿線地域では、「神戸電鉄粟生線地域公共交通総合連携計画」を策定し、これまで、行政、交通事業者、地域住民等の関係者の協力と連携により総合的かつ一体的に事業を実施してきた。

更なる神戸電鉄粟生線の維持・活性化に向け、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の改正に基づく法定計画として、地域の基幹交通である神戸電鉄粟生線を維持するとともに、神戸電鉄粟生線、路線バス、コミュニティバス等の地域の公共交通ネットワークを構築し、公共交通を中心としたまちづくりを推進するため、「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」を策定する。

2 計画対象区域

神戸市、三木市及び小野市の粟生線沿線地域

3 計画対象期間

平成 29 年度から平成 33 年度まで (5 年間)

4 地域の交通の課題の整理

地域の現況

- ・人口減少や少子高齢化の進行
- ・公共交通利用者数の減少
- ・住民の外出頻度の低下
- ・自動車分担率の増加傾向
- ・就学人口の減少
- ・鉄道とバスの利用環境が良くない交通結節点の存在
- ・粟生線の利用者数の減少
- ・粟生線の安全で安定した輸送サービスの確保

地域公共交通の課題

- 1 公共交通を中心としたまちづくりの推進
- 2 外出機会の創出
- 3 公共交通の分担率の向上
- 4 鉄道とバスの接続・適正な役割分担
- 5 神戸電鉄粟生線の維持

5 計画の目標・理念及び基本方針

基本的な考え方

- ① 地域公共交通は人や地域間、文化の交流を支え、駅を中心としたにぎわいの創出に資するなど、沿線地域にとって重要な役割
- ② 誰もが気軽に快適に活動できるよう、地域公共交通を中心としたまちづくりが必要
- ③ 地域住民、沿線自治体、交通事業者等がそれぞれ主体となり、地域公共交通の維持・活性化及び利用促進に取り組むことが不可欠

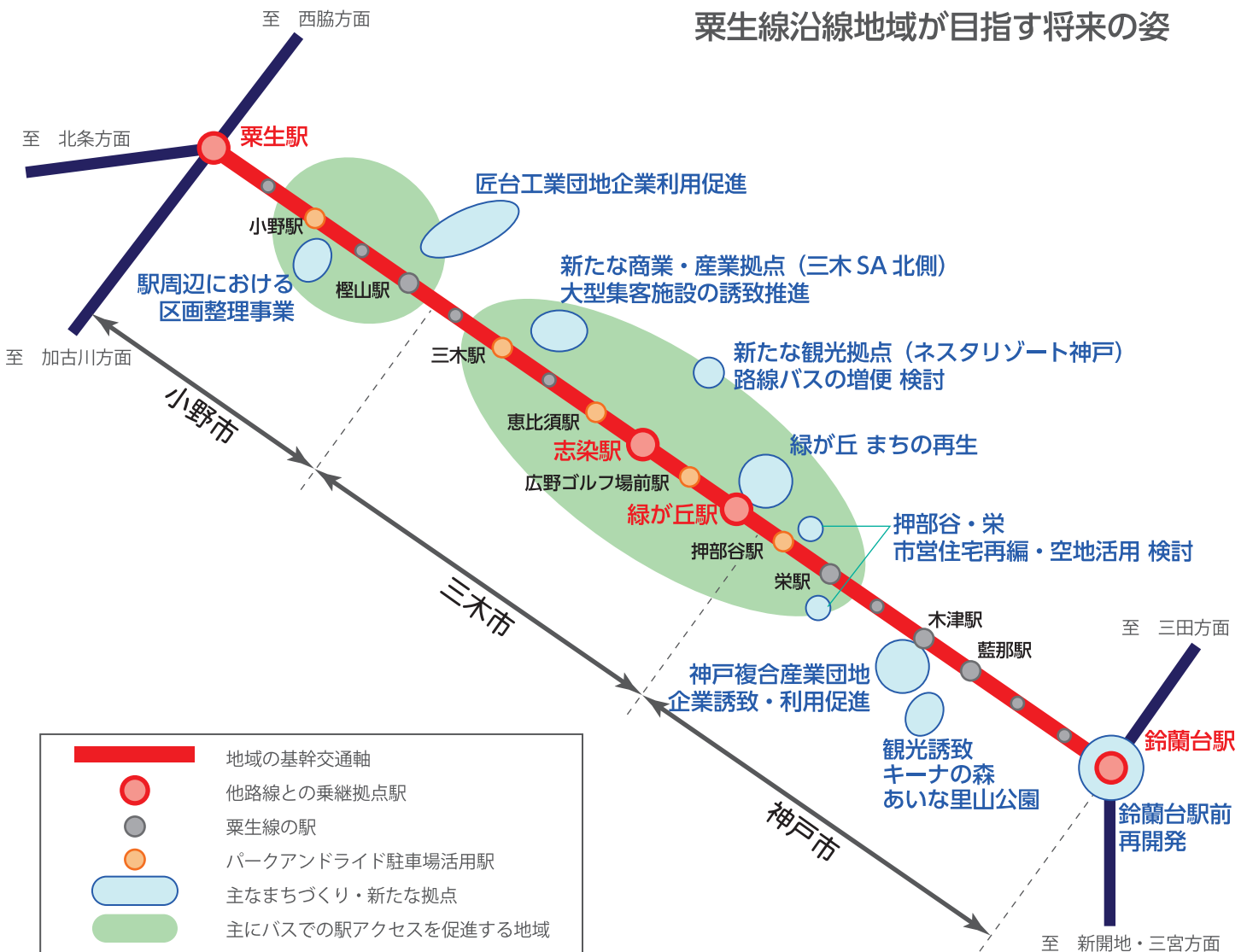
目標・理念

地域の公共交通を維持し、いつでも安心して快適に移動できる公共交通網を次世代に継承する

基本方針

- ① 鉄道を軸とした地域公共交通網の維持・形成
- ② まちづくりと連携した地域公共交通網の形成
- ③ 地域公共交通の活性化及び利用促進

粟生線沿線地域が目指す将来の姿



6 主な施策及び事業

基本方針 1

鉄道を軸とした地域公共交通網の維持・形成

- ① 鉄道とバスの連携強化
- ② 交通結節点の強化
- ③ 鉄道施設の更新・改良による安全性の確保・輸送サービスの向上
- ④ 鉄道の維持・存続のための適正な運行形態の検討

基本方針 2

まちづくりと連携した地域公共交通網の形成

- ① 駅を中心としたまちづくりの推進
- ② 観光資源の開発とアクセス手段の確保
- ③ 住宅・企業の立地を支える公共交通網の充実
- ④ 交通結節点におけるにぎわいの創出

基本方針 3

地域公共交通の活性化及び利用促進

- ① 日常利用に対するモビリティ・マネジメントの実施
- ② 職場におけるモビリティ・マネジメントの実施
- ③ 楽しい〈非日常〉利用に対するモビリティ・マネジメントの実施
- ④ 企画乗車券等の販売による公共交通の利用促進

7 数値目標の設定

基本方針 1

鉄道を軸とした地域公共交通網の維持・形成

指標	指	基準値	目標値
		① 新型車両への更新による安全で安定した輸送サービスの確保	—
② 鉄道とアクセスバスの平均待ち時間		10 分	8 分

基本方針 2

まちづくりと連携した地域公共交通網の形成

指標	指	基準値	目標値
		① 沿線地域の従業人口	4.8 万人
② 三木市・小野市の観光入込客数		733 万人	970 万人

基本方針 3

地域公共交通の活性化及び利用促進

指標	指	基準値	目標値
		① 実利用者数及び沿線地域 1 人当たりの年間鉄道利用回数	842 万人
		45 回	47 回
② モビリティ・マネジメントの参加者数		193 人	3,000 人

8 推進体制と役割分担

本計画を確実に推進していくためには、行政、交通事業者、地域住民等がそれぞれの役割を分担しながら、その役割を果たしていくことが重要である。

また、Plan(計画)、Do(実施)、Check(検証・評価)、Action(改善)のPDCAサイクルに従い、事業が適切に実施されているかを検証し、事業の計画・検討・見直しを行しながら、各事業を推進していく。

